

授業づくり講座 in 安芸市立安芸中学校



他教科のレポートも掲載予定！
HPをご参照ください。
発行：令和3年8月 東部教育事務所



国語科コンセプト

- ▶ 資質・能力を育成する単元づくり ～学習指導要領の趣旨理解～
- ▶ 授業力の向上 ～教材分析と授業省察～
- ▶ 人のつながり、学びの高まりの構築 ～他者との交流から学びの質を高める講座～

▶ 授業力の向上～教材分析と授業省察～

★協議の視点 本時で育成したい力（資質・能力）が付いたか。

単元目標

- ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。[知識及び技能] (2) ア
- ・論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
[思考力、判断力、表現力等] A (1) エ
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

単元名 安芸キャンプの開催について考えよう—自分の考えと話し手の考えを比べながら聞く—

教材名 「考えを比べながら聞こう」『新しい国語 2』東京書籍

言語活動 安芸キャンプの開催について、自分の考えと話し手の考えを比較しながら話を聞き、自分の考えをまとめる。
(関連：[思考力、判断力、表現力等] A (2) イ)

第1回授業研究会
7月13日



授業者 西岡 佳也教諭

教材研究会を受けて

- ◇ 第1時に、本時とは別の話題について、話し手と自分の意見を比較しメモを取りながら話を聞き、自分の考えをまとめる学習活動を設定。→話の聞き方について課題意識をもたせ、単元の見直しをもたせる。
- ◇ 情報のある程度教員が準備しておき、第3時に聞き手を意識した話の内容や構成について考える時間を確保。→自分の話の展開等について考えたことが、人の話を聞く時の聞き方のポイントとなる。
- ◇ 「話すこと・聞くこと」は、同時に行われる言語活動なので、より実生活に即したものとなるように本時で、自分の考えをまとめ伝え合う活動まで行い、[思考・判断・表現]について評価する。

▶ 資質・能力を育成する単元づくり～学習指導要領の趣旨理解～

★協議の視点 指導と評価が、生徒の思考の流れに沿い、資質・能力が身に付く計画となっているか。

第1回教材研究会
5月25日

単元の流れ (4/5)

話すこと		聞くこと	
情報の収集	情報の収集、内容の検討	構成の検討、考えの形成	構成と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有
<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを話すために必要な情報について考える力。 単元の学習の見直しをもつ。 単元のめあてを設定する。(自分たちの話し合いの様子の動画から、課題や改善点を見出す。) 話題(安芸キャンプ)についての考えを共有し合う。 考えを話すためにどのような情報が必要であるかを考える。 本時の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと異なる立場や考えを持つ聞き手の存在を意識して情報を収集する力。 情報を収集する。 収集した情報を共有する。 情報収集の際に意識したこと等について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを支える根拠(情報)を適切に挙げられる力。 収集した情報から、自分の考えを明確に伝えるための情報を選択する。 異なる立場の聞き手を想定し、話す順序や根拠の提示を工夫し、発言メモを書く。 本時の振り返りをする。 <p>【評価規準】 ◇ 評価方法 [知識・技能] ① ・自分の考えを支える根拠(情報)を適切に挙げている。【(2)ア】 ◇ 発言メモ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の考えやその根拠について、自分の考えと比較しながら聞く力。 話し手の考えを踏まえ、自分の考えをまとめる力。 自分の考えを話す。(動画撮影を行う。) 単元の振り返りをする。 <p>【評価規準】 ◇ 評価方法 [思考・判断・表現] ① ・自分の考えと話し手の考えの共通点や相違点を踏まえて、自分の考えを話している。 【A(1)エ】 ◇ メモ、観察、撮影動画</p>

グループ協議より

- ◆ 言語活動に必然性がほしい。
- ◆ 異なる意見というものを対立するものに限定せず、例えば、どうすればキャンプを開催できるかという話題にすれば、多様な考えが出て建設的な「話すこと・聞くこと」につながるのではないか。
- ◆ 情報収集に時間がかかるのではないか。
- ◆ 本時について、話し手と自分の考えを比較してメモしながら話を聞くことは本時だけでは難しいのではないかと。
- ◆ [知識・技能] ①については、情報源や根拠が確かなものであるかを教員が把握しておく必要がある。複数の資料を基に生徒に考えを形成させる必要がある。
- ◆ [主体的に学習に取り組む態度] ①について、学習の調整を生徒が行えるよう、良いメモ例を共有させるなどの工夫が必要である。

4. 単元の指導と評価 (本時 4/5)

話すこと	聞くこと
<p>【評価規準】 ◇ 評価方法 [知識・技能] ① ・自分の考えを支える根拠(情報)を適切に挙げている。【(2)ア】 ◇ 発言メモ</p>	<p>【評価規準】 ◇ 評価方法 [思考・判断・表現] ① ・自分の考えと話し手の考えの共通点や相違点を踏まえて、自分の考えを話している。 【A(1)エ】 ◇ メモ、観察、撮影動画</p>

グループ協議より

生徒の思考の様子から

- ◇ 友達の見解から自分の意見を強化したり見直したりすることができていた。
- ◇ 同じ反対意見でも根拠の示し方が違う点に着目できていた。(見方・考え方を働かせることができていた。)
- ◆ メモがとれていない生徒がいた。
- ◆ 生徒が挙げている根拠が限られており、比較しながら聞くことができる話題となっていない。
- ◆ 話し手の考えを聞き、自分の考えをまとめる際、論理的な思考を働かせることができていたか疑問である。

単元や本時について

- ◇ 自分の意見、話し手の意見が分りやすくメモできるようワークシートが工夫されていた。
- ◇ 生徒が自分の変容に気付いたか明らかにさせる問いかけが良い。
- ◇ 自分の考えをまとめる過程が見られる学習展開であった。
- ◆ ワークシートにメモをさせることで、考えが固定化されてしまうのではないかと。
- ◆ 生徒任せの活動になっていた。例えば、メモを共有させたり評価を入れたりしながら進めるとよかった。
- ◆ ICTの活用の目的がよく分からなかった。メモのみにしてもよかったのではないかと。
- ◆ 話し手の話の何に着目して比較するのが明確になっていなかったのではないかと。

▶ 人とのつながり、学びの高まりの構築～他者との交流から学びの質を高める講座～

リフレクションシートより

- * 話し手の考えと自分の考えを比較しながら話を聞くことは、小学校からの積み重ねが大切であることを痛感した。小学校で育成する資質・能力を再確認し、系統的に指導していかなければならないと改めて思った。
- * 育成を目指す資質・能力とゴールイメージや授業の展開にズレはないかということをも自分自身が振り返ることができた。
- * 言葉による見方・考え方を生徒の姿から再確認できた。

ICTの活用
チャレンジ

音声言語は消えてしまいます。録画することで、生徒が、話すことや聞くことの視点に即して見直したり、聞き直したりすることができます。また、教員が評価を行う際にも有効に活用できます。